

第 73 期

令和 7 年度 事業報告書

令和 7 年 4 月 1 日から
令和 8 年 3 月 31 日まで

福島県郡山市駅前一丁目 1 番 17 号
公益財団法人 湯 浅 報 恩 会

第73期（令和7年度）事業報告書

1. 事業概況

令和7年（2025年）は、第二次世界大戦の終戦から80年、昭和でいうとちょうど100年にあたる節目の年となった。節目に合わせたように4月から半年にわたって開催された大阪・関西万博は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが明けて初めてのビッグイベントとなったが、開幕前、国内に充満していた批判の声を覆し2,900万人超が来場、連日企画されたナショナルデー、スペシャルデーの式典等を通じて、「分断」が進む時代に「多様でありながらひとつ」というメッセージを発信した。

大阪・関西万博が閉幕してまもない10月21日には、憲政史上初の女性内閣総理大臣となる高市早苗政権が誕生し、自民・維新連立の下、積極財政と安全保障・社会制度の再設計を同時並行で進める方針を打ち出した。60～70%という高い支持率を背景に、高市総理就任直後の平均株価は5万円を突破、長期金利も上昇に転じた。しかし、近時の日本経済は円安とインフレが同時進行しており、実質購買力の低下が企業利益や家計を圧迫している。また、高市政権が基本政策の一つに掲げる「多軸外交」は、国際秩序が多極化する中で常に難しさや加減を求められており、高市政権が長期政権化を実現できるかは未知数である。

世界情勢に目を転じると、ロシアはウクライナへの侵攻開始から4年以上を経過した現在も攻撃を継続し、停戦交渉に応じる気配を見せていない。また、第二次トランプ政権は、「米国第一」主義を従来以上に露骨に打ち出し、独裁的な政策を強行している。米国は、本年（令和8年）2月、イスラエルとともに突然イラン攻撃を開始し、これによりホルムズ海峡が封鎖されたことにより、世界経済は新たな脅威に直面している。

医療経営をめぐるのは、コロナ禍以前から潜在していた医療機関の経営難がコロナ関連補助金の廃止によって一気に顕在化し、わが国の病院の約7割が赤字に陥っている。超高齢社会の進展により高齢者救急、認知症等に対する医療・介護ニーズが高まる一方で、生産年齢人口の減少にともなう労働力不足が加速し続けており、働き方改革の推進がこれに拍車をかけ、医療・介護の担い手不足が深刻な課題となりつつある。高市政権の総合経済対策には、医療・介護事業者の経営悪化に対する支援策も盛り込まれ、令和8年度に実施する診療報酬改定では本体部分を3.09%引き上げることが決定された。しかしながら、病床数や急性期症例数に応じた補助金の交付による医療機関の救済効果は限定的で、診療報酬の改定を待たずに廃業や事業譲渡に追い込まれる医療機関も増加し続けている。今後、2040年を見据え、急性期医療の適正化、回復期・慢性期医療の質向上を図ろうとする新たな地域医療構想が進展すれば、医療機関の統廃合と淘汰はさらに進むものと予想される。

2. 部門別事業報告

(1) 法人本部

「理念を堅持しながら経営基盤を強化する」という法人の目指す方向性を共有し、職員一

人ひとりの経営参画意識を高めるため、「プロジェクト E&T (Education and Training)」が企画する、体系的な能力開発・教育システムに基づく職員研修の実施に協力し、内容の充実に努めた。定例のリーダー研修や新役職者研修を実施したほか、新たな試みとして、理事長、寿泉堂総合病院・寿泉堂香久山病院・寿泉堂クリニック各院長、法人事務局長、法人看護部長を交えた「管理職ワールドカフェ」を開催し、法人が直面している課題の解決に向けて組織横断的な意見交換を行った。

人事関連では、年度を通して、法人の安定的な運営に不可欠である職員数の確保と働きやすい職場環境の整備に努めた。新卒者数が減少し病院間の職員獲得競争も激化する中で優秀な人材を採用し定着を図るため「リファラル採用」制度を導入し、職員からの紹介を活かした採用を強化した。労働条件面では、養育両立支援休暇の整備や次年度から開始する 1 時間単位での年次有給休暇取得制度の導入準備を進めた。

財務関連では、前年度に引き続き外部コンサルタントも活用して経営改善計画を立案し、特に寿泉堂総合病院の新規入院患者数増加を図るため、地域の診療所への訪問活動に力を入れた。同時にグループ内連携の深化を図りながら、職員に対し毎月の収支状況を速報値の段階から積極的に発信、危機意識を共有して経営参画を促した。結果、法人全体での医業収益総額は前年度比で 192 百万円増加したものの予算値には大幅な未達となり、人件費の増加と諸物価高騰ともなう経費増を吸収することができなかった。

「郡山駅前一丁目第二地区第一種市街地再開発事業」による施設建築物（複合ビル）新築工事は、2 年 10 箇月の工期を経て令和 8 年 2 月 18 日に竣工式を実施、同 27 日に引き渡しを受け、3 月 1 日、複合ビルの 1～3 階部分に郡山駅前通りから寿泉堂クリニックを全面移転し新・寿泉堂クリニックとして開業した。現・寿泉堂総合病院が位置する第一地区の整備から始まった「郡山駅前一丁目第一種市街地再開発事業」は、平成 18 年の都市計画決定・補助事業採択から数えて、実に 20 年の歳月を経て完了したこととなる。

(2) 寿泉堂総合病院

令和 7 年度は、前年度と比較し救急搬送件数が 251 件（9.2%）減少し、紹介患者数は増加したものの近隣病院と比較して増加数が伸び悩んだため、目標とした新規入院患者数を確保することはできなかった。入院患者数については、DPC 期間Ⅱ以内の退院の定着や新規入院患者数の減少により平均在院日数の短縮がさらに進んだことにより、前年度の水準に届かなかった。入院診療単価は、DPC 期間Ⅱ以内の退院や手術件数の増加によって大きく伸びたが、入院患者数減少と相殺されて収支状況の好転にはつながらず、病院経営は大変厳しい状況となった。

以下に今年度の主な経営指標結果と取り組みを示す。

<財務の視点>（増収・費用削減など）

【入院患者数・平均在院日数】

延べ入院患者数は 62,448 人で前年度より 3,864 人（5.8%）減少した。

平均在院日数は 8.1 日で前年度と比較し 1.2 日短縮、延べ患者数減少の大きな要因となった。

【外来患者数・紹介件数（率）】

外来患者総数は 106,460 人（一日平均 377.5 人）で前年度より 3%減少した。

外来患者総数が減少した主な要因は、逆紹介を推奨し前年度より逆紹介数が 914 人増えたこと、救急搬送数や夜間・休日患者数が前年度を下回った結果、初診患者数が 620 人減ったことなどによる。

初診紹介患者総数は 6,667 人と前年度より*64 人増加した。紹介率は 69.2%と前年度より 0.5%減少したが、逆紹介率は 79.6%と前年度の 68.3%を大きく上回った。いずれも地域医療支援病院の要件（当院は、「紹介率 65%以上、逆紹介率 40%以上」で届出）を満たした。

*前年度比較には、令和 6 年度に郡山市において発生した小児結核接触者検診者数を含まず。

【救急搬送件数・救急入院数】

救急搬送件数は 2,479 件と前年度より 251 件減少したが、地域医療体制確保加算の施設基準 2,000 件をクリアした。救急入院患者数も 1,141 人と前年度より 86 人減少したが、救急入院率は 46.0%と前年より 1.1%増加した。

【診療単価】

入院診療単価は、前年度比 8.9%プラスの 73,519 円となった。4 月～9 月までの上半期が 72,005 円だったのに対し、10 月～3 月までの下半期は平均 75,051 円とさらに上昇し、1 月～3 月は平均 75,943 円となった。

外来診療単価は、前年度比 7.4%プラスの 21,609 円となった。

【医業収支】

医業収益は 7,058 百万円と前年度より 164 百万円増加したが、新規入院患者数が伸び悩んだことが響き、予算値 7,903 百万円には遠く及ばなかった。人件費・材料費・設備関係費等の医業費用は、人員増や物価高を反映し前年比 76 百万円（1.0%）増の 7,673 百万円で、医業損益は 615 百万円の赤字、283 百万円の受取補助金等を含めた一般正味財産増減額は 367 百万円の赤字となった。減価償却費 371 百万円を除いた償却前一般正味財産増減額では 4.2 百万円の黒字となり、前年度からは 186 百万円改善した。

令和 7 年度の増収対策では、4 月より福島県立医科大学眼科学講座名誉教授の石龍鉄樹医師が着任したことにあわせ、院内にアイセンターを設置し眼科診療体制の充実を図ったほか、10 月には増患のため以下 4 つのプロジェクトを発足させた。①「救急科」を新たに標榜し、救急からの入院拡大を図る。②外科系診療科における手術件数増加を図る。③内科系診療科における検査入院や教育入院等の積極的導入を図る。④PFM の再構築を図る。同じく 10 月からは個室料金と室料免除申請の見直しも実施し、個室料金についてはシャワーやトイレの有無により 7,700 円、8,800 円、11,000 円の 3 種類の料金を設定するとともに、8 つの 2 床室を有料個室化した。その結果、個室料金は前年度と比較し 9 百万円の増収となり、一方、室料免除料金は 240 万円の圧縮となった。同じく 10 月より、分娩包括料金（個室料は別）を初産婦は 50,000 円、経産婦は 60,000 円それぞれ値上げし同額の 500,000 円に改定し、新たに無痛分娩料金を 150,000 円に設定し、運用を開始した。そして、期末の 3 月からはハイケアユニット入院医療管理料 1 の算定を開始した。DPC 期間Ⅱまでの退院率は、前年度よりも大きく割合を伸ばし、1 年間の累計は 71.8%で前年度より 9%増加した。今年度も DPC

期間Ⅱの退院率向上とともに新規入院患者数の確保に取り組んだが、1日平均入院患者数の予算達成率は83.9%に止まり、外来患者数とともに予算値達成には至らなかった。令和8年度は新規入院患者数と1日平均入院患者数の両軸の達成を目指していく必要がある。

費用削減対策では、水光熱費、材料費等の圧縮に努めたものの、諸物価高騰の影響により十分な成果を得ることはできなかった。細かいところでは、4月より医師の出張旅費の上限額を年間30万円に設定した。

<顧客の視点> (顧客満足度向上・サービス向上など)

令和7年度 患者満足度調査による肯定的評価の割合は、入院 90.8 % (前年度 90.6%)、外来 78.2 % (前年度 79.0%) とほぼ前年度並みだった。寿泉堂ポスト等に寄せられた「患者さんからの声」では、接遇や職員の言動に関する苦情が多かったが、「なんでも相談室」に寄せられた相談には待ち時間等診療に関する苦情も少なくなく、今後も内容を分析し継続して改善に取り組む必要がある。

令和7年度は、6月から、逆紹介を推進することを目的に、3階フロアに「医院・クリニック紹介窓口」を設置した。7月には第1回公開医学講座、10月には第2回公開医学講座、12月には寿泉堂忘年懇話会など開業医をはじめ地域の医療関係者を対象とした対外行事を行った。また10月には「周産期インスタグラム」を開設し、当院の周産期に係る様々な情報の発信を開始した。地域医療連携の強化に向けては、お中元・お歳暮時期の「季節の挨拶回り」を、前年同様、病院長、副院長はじめ一部の診療科部長の協力を得て行った。昨年から配布を開始した「医師・診療科紹介」のリーフレットを今年度も作成・配布し、各診療科の医師や得意とする診療分野を紹介することにより集患対策の強化に取り組んだ。9月は寿泉堂病院ゴルフ大会を開催し、院長も参加の下、連携医との親睦を深めた。11月には寿泉堂病院解剖慰霊祭、12月には入院患者の心の癒しと励ましを目的に Xmas コンサートを開催した。

4月、7月、8月、10月、1月には、うすい百貨店1階アトリウムにおいて医療セミナーイベントを開催し、院内の医師や多職種チームがそれぞれの専門とする疾患や最新の治療等について講演し、多数の市民が来場した。

3月末からは、法人のイメージアップを図るとともに、寿泉堂クリニックの新規開業をPRすることを目的に寿泉堂グループのテレビCMを放映した。

<業務プロセスの視点> (質の向上・効率化・標準化・連携強化など)

㈱日本経営によるコンサルティングの内容も踏まえ、HCUを導入するにあたり病床規模を適正化し(1病棟を休床)、病棟看護師の効率的配置・集約化を図った。2月の実績を基に3月からハイケアユニット入院医療管理料1の算定を目指すため、必要な検討項目とスケジュールを提示し予定通り実行できたことにより、今年度の大きな目標を達成できた。

6月には、福島県立医科大学に寄附講座「加齢性眼疾患治療学講座」を設置した。期間は令和7年6月1日～令和10年3月31日までとなる。7月には、東北厚生局による「施設基準等に係る適時調査」が5年半振りに実施され、調査の結果いくつかの指摘事項はあったものの返還金の発生はなかった。10月には、「病床数適正化支援事業」に基づく補助金の交付が受けられないか検討を行った結果、8つの2床室を個室化するなどにより10床削減し、

許可病床数を 295 床へ変更した。12 月は診療部長会議を開催し、病床管理室より HCU の開設に向けたロードマップを提示するとともに、それにもなう病床再編と開設までのタイムスケジュールを共有した。同じく 12 月から、郡山地方広域消防組合の救急支援システム「Smart119」の 2 月導入に向け試験的運用を開始した。12 月はまた、郡山保健所による病院立入検査も実施された。1 月からは、8 階病棟が HCU 看護師人員確保のため閉棟になるとともに、12 病棟を従来の 10 階病棟と 11 階病棟へ再編した。あわせて 9 階に HCU を新設し、2 月から基準実績のカウントを行い 3 月から加算算定を開始した。1 月、2 月には、ロボット支援手術機器導入ワーキンググループを開催し、「hinotori」の導入を想定した課題等について意見交換を行い、導入の方針が 3 月の病院経営会議、財団運営会議、病院運営会議で承認された。3 月からは、HCU 開設にともないベッドコントロールセンターを設置し、専従のベッドコントロールマネジャーを配置した。3 月はまた、紹介患者を増やすため、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、耳鼻咽喉科の医師が田村地区の診療所を訪問した。

<学習と成長の視点> (職員教育・人員確保・労働環境整備など)

職員教育の取り組みでは、プロジェクト E&T の主催により、5 月にワールドカフェ形式による管理職研修、7 月にジュニアスタッフ研修、7 月と 9 月にリーダー研修 (入職 6 年目以上対象)、10 月に新役職者研修、11 月にフォローアップ研修会を開催し、職員教育プログラムの充実を図った。

人員確保の取り組みでは、10 月に医科臨床研修医 6 名、歯科臨床研修医 1 名のフルマッチングが成立した。また 10 月からは、看護師の夜勤人員確保と柔軟な働き方に対応するため、夜勤専門看護師を新たに配置した。さらに 1 月より、看護師の離職防止と一定の処遇改善を図るため、病棟配属の夜勤に従事する看護師を対象に新たな手当の支給を開始した。また 3 月より、必要職種の職員を確保するためリファラル採用制度を導入した。リファラル採用の対象職種は当面、医師、看護師、准看護師、言語聴覚士とした。

労働環境整備の取り組みでは、前年度から始まった医師の働き方改革により、毎月の医師の働き方検討会で医師 1 人 1 人の当直や超過勤務状況の報告が行われ、令和 7 年度も全医師が A 水準を維持することができた。また、3 月に 6 名の 2 年次初期臨床研修医と 1 名の歯科研修医が必要な単位を取得し、無事に臨床研修を修了することができた。

(3) 寿泉堂香久山病院

令和 7 年度は増患戦略の具体的な方針を策定した「2025 Kaguyama's 5 Strategies & 8 Tactics」を軸に、寿泉堂総合病院をはじめとした急性期病院等との連携強化を図り入院患者の獲得に努めた。主要 KPI である 1 日当たりの患者数は、入院 200.3 人(前年比 +1.2 人、予算比-11.8 人)、外来 18.5 人(前年比-0.7 人、予算比-6.6 人)であった。回復期リハビリテーション病棟を中心に、前年を超える入院患者数を維持した。療養病棟、地域包括ケア病床では入院受け入れプロセスの改善により、上期比で約 1 日の受け入れ日数短縮を達成し、業務効率の向上につなげた。また、患者数の増加に対応する体制強化の一環として、介護・医療領域に特化した単発勤務プラットフォームを活用し、介護福祉士・看護師などの資格を有する人材を対象とした“スポット雇用”という新たな雇用形

態を導入した。これにより業務量の変動に応じた安定的な介助体制の維持が可能となり、職員の負担軽減にも寄与した。

外来部門においては、入院受け入れフローの見直しを実施し、従来外来で担っていた入院患者対応の一部をタスクシフトすることで業務の適正化を進めた。これらの取り組みにより、看護師不足という課題に対応しつつ、持続可能な業務運営体制の構築につなげた。また、訪問診療部門においては、薬剤師および管理栄養士による訪問管理指導、訪問歯科診療を新たに開始し、患者の在宅療養を多職種で支援する体制を整備した。

最終的に入院診療単価 27,759 円（前年比+400 円、予算比+394 円）、介護入院単価 16,446 円（前年比-149 円、予算比-354 円）、外来診療単価 8,697 円（前年比 304 円、予算比-645 円）、介護外来診療単価 10,682 円（前年比-99 円、予算比 102 円）となった。また、病院職員の処遇改善や物価高騰による経営負担の軽減を目的とした「医療機関等における賃上げ・物価上昇支援事業」および「介護分野の職員賃上げ・職場環境改善支援事業」により、約 72 百万円の補助金を受領した。

費用面では、経年劣化による錠剤分包機の更新に約 1 千万円、Windows OS サポート終了に伴う情報系 PC の更新に約 7 百万円が発生したが、いずれも業務の継続や情報セキュリティ確保のため不可欠な更新であった。また費用の発生はなかったものの、12 月 17 日早朝、水トリ現象による電線のショートで停電となり、自家用発電機による給電は確保できたが、商用電源からの受電復旧には夕方までの時間を要した。この経験を踏まえ、電源設備の保守点検強化に加え、非常時の対応手順見直しを行い、BCP の実効性向上に向けた取り組みを進めた。

医療の質向上の取り組みとして、国際骨粗鬆症財団（IOF）が主催する「Capture the Fracture」ベストプラクティスフレームワークにおいて、骨粗鬆症患者の二次性骨折予防体制が評価され郡山市内初の銅賞を受賞した。地域における二次性骨折治療を行う医療機関として中核を担うことができるよう当該治療に関連する活動を強化している。

地域貢献活動については、感染症の流行により「家庭医学講座」の開催は見送られたものの、ファミリー倶楽部活動として、昨年度に引き続き名倉町内会および社会福祉協議会からの連名依頼を受け、「名倉エンジョ・イーランド（全 3 回）」へ当院職員を派遣した。地域住民の方々を対象に、体操指導や握力測定、折り紙によるポチ袋制作などのレクリエーションを実施し、住民同士の交流促進や介護予防を含む健康づくりの支援に取り組んだ。また郡山市中央公民館より依頼を受け、二次性骨折予防チームが骨粗鬆症に関する講義を実施した。地域住民に向けて、骨粗鬆症の基礎知識、予防のための生活習慣、早期発見の重要性などを分かりやすく解説し、健康づくりに資する情報提供を行った。

広報活動においては、入院患者ご家族向け広報誌「かわら版」の全面リニューアルを行い、より見やすく分かりやすい紙面構成となるよう改善を図った。また、継続して運用している SNS では、郡山地方広域消防組合との協働による予防救急啓発プロジェクトが立ち上がり、来期の投稿開始に向けて準備を進めている。

患者数は増加傾向にあり、当院の取り組みが確かな成果として表れつつある。加えて、

診療報酬改定にともなう新規加算の算定に向けた準備も進めており、体制整備を着実に進行している。令和 8 年度に向けては、この好調な流れをさらに確かなものとし、より質の高い医療提供と経営基盤の強化を図っていく。

(4) 寿泉堂クリニック

(透析センター)

透析監視装置は新・寿泉堂クリニックへの移転に合わせて 50 台に 1 台増設、純水製造装置は最新型 W-RO 装置を導入した。透析液供給方法は従前同様集中管理方式としており、すべてオンライン HDF（血液濾過透析）対応となっている。今年度の血液濾過透析実施率も平均 95.2%と高水準を維持し、より小分子蛋白質などの除去効率が高く質の良い透析を提供できた。また、透析情報集中管理システムにより法人内各施設の透析情報の共有化が図られている。

COVID-19 等感染症対策では、発熱患者等の検査を積極的に実施し、陽性患者等の隔離透析を徹底した。しかしながら、3 月下旬に花粉症症状の患者の陽性を端緒とするクラスターが発生した。

延べ患者数は、病院車利用による送迎に午後コースを新設し患者数確保を図ったが、新規紹介数の伸び悩みにより 19,336 人（前年比-205 人）と 1.1%減少した。なお、薬剤の見直しやオンライン HDF の実施、足病変に対する処置等の積極的な実施により診療単価が前年比+398 円 1.2%増加したことで、収入総額は前年比+0.6 百万円 0.1%増加の 657 百万円を確保できた。

(健診センター)

今年度も COVID-19 感染者数は少ない状況からスタートし、年間を通して落ち着いた状況で推移した。感染防止対策として体温測定と体調・罹患歴の確認を徹底し、該当のある受診者については一定期間受診制限を行ったことで、延期やキャンセルが散見されたが、健診業務は休止することなく継続することができた。

新クリニックへの移転にともない、二日ドックは 12 月で終了となったが、特定保健指導を積極的に行い、今年度は 145 人に実施できた。人間ドック健診者 3,327 人への当日結果説明は 100%実施、うち保健指導は 636 人・19.3%（前年 641 人・18.5%）の受診者に行い、生活習慣病の予防・改善に取り組んだ。

公立学校関係の申込者数減少の影響により健診者延数は年間 17,215 人（前年比-304 人）となったが、収入総額は前年比-6 百万円 1.6%の減少に留まり、410 百万円を確保できた。

(クリニック総括)

透析治療継続の関係から新クリニックへの引越し期間が実質 1.5 日しかないというタイトな状況であったが、滞りなく引越しを完了し、令和 8 年 3 月 1 日に無事開院できたことは関係各位の協力のおかげであり感謝したい。移転により施設面積は従来の 2 倍強の広さとなり、透析部門、健診部門とも今までの狭隘さから解放されたため、これを契

機に新しい施設をアピールし患者数・受診者数確保につなげていきたい。

透析部門は患者獲得の激戦区という状況に変わりはなく、無料送迎による患者確保に努めているが、実患者数は年度当初より 2 人の増加に止まった。健診部門は引越しにともなう休診と公立学校関係の影響を受けたことで受診者数は減少したが、今後の受診者増に対応できる施設となっている。

寿泉堂クリニック全体の医業収入総額は 1,067 百万円、対前年比-0.5%・5.8 百万円減収となり、医業費用はほぼ前年同額の 799 百万円、経常外費用として引越し等移転関連特別費用 31 百万円が発生している。その結果、減価償却前利益は 255 百万円・前年比-44 百万円となった。医業収入対利益率は前年度より減少したが 23.9%と高い水準を維持することができた。

(5) いずみ訪問看護ステーション

<財務の視点>

訪問件数は上期 1,612 件、下期 1,472 件と目標値の 1,440 件を達成、年間 3,084 件となり前年比で 30 件増加した。新規利用者は年間 24 人。職員の減少等があり、新規受け入れを調整することがあったが、訪問枠の調整をして受け入れられる体制を整えた。

ターミナルケア加算算定は年間 3 人、目標値の 60%に止まったが、加算を算定せずに在宅看取りになった方はいなかった。特別管理加算Ⅰ・Ⅱの算定の割合は上期 16%、下期 14%と算定基準の 20%を満たさず、令和 7 年 8 月から看護体制強化加算Ⅱを算定することができなくなっている。

<顧客の視点>

新規利用者のうち、6 人中 5 人は退院当日に自宅を訪問し、退院直後からの療養環境の整備、ケアを行うことができた。退院時共同指導加算は、新規・既存の利用者上期 12 人中 7 人、下期 9 人中 4 人算定。退院後から訪問看護利用開始となる場合や、留置カテーテル挿入で退院の方は退院前にカンファレンスを行い情報共有することで、切れ目のないケアの提供を行うことができた。

利用者満足度調査では、「とても満足」が 68%と、目標値に対する達成率 91%だった。

<業務プロセスの視点>

多職種を交えたカンファレンスは、上期は香久山病院地域連携室の社会福祉士と、利用者の入院受け入れの相談や香久山病院の役割について実施し、利用者家族から相談があった場合の参考にすることができた。下期は、精神科専門看護師とターミナル期の対応についてカンファレンスを実施し、利用者に合わせた対応を学び、ターミナル期の支援をすることができた。

部署内カンファレンス・事例検討会は、受け持ち看護師が中心となり実施し、利用者について困っていることや対応の振り返りについてカンファレンスを行い、上期下期ともに目標値を達成した。

<学習と成長の視点>

各職員が年 1 回、自主的に学んだことや興味があることについて企画・運営を行い、接

遇・認知症・終末期ケア・ACP (Advance Care Planning) ・多職種協働について学びを深めた。

院内・院外研修会への参加は、ほとんどの職員は年 5 回参加の目標を達成することができた。研修会で学んだことを事業所内の伝達研修で周知し、ケアに活かすことができた。

(6) 寿泉堂香久山居宅介護支援事業所

<財務の視点>

1 月から 2 月にかけて退職や異動により介護支援専門員が 1 名減になったが、ケアプラン件数は年間 2,033 件で、前年比 40 件減少したが特定事業所加算Ⅱの算定を維持することができた。引き継ぎに影響が出ない範囲で、新規相談も積極的に受け入れた。入退院時は医療機関とも連携を図り、初回加算や入退院等に関する加算算定ができるよう努力した。近年は在院日数の短縮にともない、入院当初から退院後の生活に向けた支援が始まるため、医療との連携強化、そして早急にケアマネジメントが展開できるよう技術の向上が求められている。老々介護や認々介護等の高齢者世帯も多く、介護保険だけではなく権利擁護や障害福祉との併用が必要なケースの依頼も増えてきている。

年間で 152 件の入院があり、施設入所や死亡等により 70 件が終了となった。在宅部門でかかわる利用者やその家族は高齢期であり、急変し病院へ急遽入院することも多くなっている。医療と介護の連携をさらに強化し、利用者やその家族のため柔軟に対応することが求められる。

<顧客の視点>

利用者の介護度別では要介護 1、2 の軽度者が 70%、要介護 3～5 の中重度者は 30%とほぼ前年同様である。前述のとおり人的・物的・経済的環境等が整わないと在宅介護を続けることは難しく、生活保護を受けながら最終的に施設入所などにより終了となることもあった。認知症や身寄りが無い、高齢者虐待など権利擁護を必要とする利用者や、8050 問題など家族支援を必要とするケースも多くなり、一人一人のケース対応に時間を要している。居宅介護支援事業所は、人生の最終段階に関わることが多い。利用者や家族の意向や思いを受け止め、寄り添い、利用者だけではなくその家族への支援の視点を持ち業務に取り組んできた。今後もその姿勢を継続していく。

<業務プロセスの視点>

処遇困難ケース対応のスキル向上を目的に、事例検討を積極的に実施した。医療や介護だけではなく障害福祉制度や成年後見制度、高齢者虐待対応などについても検討し、課題解決スキルの向上に努めた。

自然災害や感染症が発生しても業務継続ができるよう、業務継続計画 (BCP) の見直し、評価を行った。結果、より充実した内容となっている。

実習生は福島県介護支援専門員実務研修を 1 人、ポラリス保健看護学院より 4 人を受け入れた。

<学習と成長の視点>

事業所内研修の充実を図り、倫理や面接技術、接遇、メンタルヘルス、ハラスメント、防

災、ACP、虐待防止などの研修を実施し知識を深めた。利用者やその家族が住み慣れた地域で安心して在宅生活が継続できるよう、ケアマネジメント力を向上させ支援していきたい。

(7) 郡山南部地域包括支援センター

<財務の視点>

担当地区の高齢者数は前年度に比べて 106 人増加し 6,750 人、高齢化率は 28.2%となっており、前年比 0.6%増加した。要支援者・事業対象者のケアプラン作成件数は 3,387 件で、前年比 390 件増加し目標値の 3,002 件を 385 件上回った。要支援者・事業対象者の初回加算算定は 95 件で、前年比 6 件減少した。

高齢者数が増加するのと同時にケアプラン数も増加している。利用者の自立支援の観点で介護予防・重度化防止の推進に努め、要支援状態が維持・改善できるよう支援を行うことができた。

<顧客の視点>

新規相談対応は 249 件で、前年比 44 件減少した。複合的な問題を抱えるケースや身寄りのないケースなどの相談も増えており、相談支援業務を円滑に進めるため医療機関や多職種協働による連携を図り、課題解決に向けて対応することができた。

菜根・野鳥の森いきいきサロンでの健康教室開催後にアンケートを実施した結果、健康や介護予防意識が高まり令和 8 年度の健康教室継続につながった。そのほかの通いの場でも健康教室を開催し、地域住民へ自立支援や介護予防の啓発活動を推進することができた。

<業務プロセスの視点>

地域ケア会議は個別会議を 3 回開催し、独居高齢者の見守り体制の構築と認知症の方の支援体制について、行政・医療機関・認知症初期集中支援チーム、居宅介護支援事業所と連携し課題解決に向けて検討を行った。圏域会議は三中・菜根地域で 2 回開催し、新たな地域住民の活動の場づくりを展開することができた。

認知症施策推進のため、いきいきサロン・グループホーム・専門学校などで認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解と対応について周知することができた。また、認知症地域支援推進員を中心に、認知症初期集中支援チームや医療・関係機関と連携を図り、支援体制を強化することができた。

<学習と成長の視点>

担当エリアの居宅支援事業所ケアマネとの交流会では、研修会や事例検討会を実施し、地域包括支援センター職員も含めケアマネジメントの質の向上を図った。

多様化・複雑化する課題も増えてきており、外部の研修会などにも積極的に参加し、専門知識の向上に努めた。

3. 収 支 報 告 (決算)

「2. 部門別事業報告」に記載した各部門の事業経過の結果、法人全体の令和 7 年度医業収益総額（内部取引消去前）は 10,204 百万円となり、前年度に対して 192 百万円・1.9%増

加した。これに受取補助金（設備投資に対する補助金振替額を含む）360百万円を加えた経常収益は10,665百万円となり、前年度に対し449百万円・4.4%の増加となった。対する経常費用総額（内部取引消去前）は、11,114百万円と前年度比152百万円・1.4%増加し、その差額である令和7年度の当期経常増減額（経常損益）は448百万円の損失となった。

寿泉堂総合病院では、DPC 期間Ⅱまでの退院率の向上及び手術件数の増加により入院診療単価が大幅に上昇したが、新規入院患者数が伸び悩み一日平均入院患者数は予算値を大きく割り込んだこと、寿泉堂香久山病院でも、医療療養病棟で入院患者数が伸びなかったことなどが影響した。

経常外増減額については、郡山駅前一丁目第二地区第一種市街地再開発事業は個人施行者が事業主体となっているが、個人施行者は法人格を持たず納税主体とならないため、再開発事業に係る消費税の申告は、当法人で再開発事業を取り込んだ上で行うこととなる。そのため本年度決算では、令和8年2月に第二地区の建物が竣工したことを受けて、再開発事業にともなう収支差額の総計186百万円を、「再開発事業個人施行者関連収支差額」として法人本部に一括計上した。これにより、当期経常外増減額は120百万円のプラスとなった。

以上の結果、当期経常増減額と当期経常外増減額を合算した当期一般正味財産増減額（当期純利益）は、328百万円の損失となった。再開発事業の清算分を除く、当法人の当期純利益は514百万円の損失になる。厳しい事業環境の中、人件費増、諸物価高騰等による経費増に対応した上で前年度比260百万円は改善したが、次年度に大きな課題を残す結果となった。

4. 役員会報告

本年度の理事会・評議員会等を、以下の通り開催した。

(1) 理事会

① 定時

開催日 令和7年6月12日

議決事項

- ・ 第1号議案 令和6年度事業報告・決算報告について
- ・ 第2号議案 会計監査人の任期満了に伴う候補者選任及び監査報酬について
- ・ 第3号議案 理事及び監事の任期満了に伴う候補者の選任について
- ・ 第4号議案 評議員の任期満了に伴う候補者の選任について
- ・ 第5号議案 定時評議員会の招集について

報告事項

- ・ 郡山駅前一丁目第2地区市街地再開発事業報告について
- ・ 関連施設の現況報告について

② 臨時（みなし決議）

みなし開催日 令和7年6月27日

議決事項

- ・ 代表理事（理事長）選定について
- ・ 業務執行理事（副理事長）選定について

③ 定 時

開催日 令和 8 年 3 月 26 日

議決事項

- ・ 第 1 号議案 令和 8 年度事業計画・収支予算案について
- ・ 第 2 号議案 令和 8 年度借入限度額設定について
- ・ 第 3 号議案 令和 8 年度事業計画書等の福島県への提出について

報告事項

- ・ 令和 7 年度決算見通しについて
- ・ 郡山駅前 1 丁目第 2 地区市街地再開発事業の状況報告について

(2) 評 議 員 会

① 定 時

開催日 令和 7 年 6 月 27 日

議決事項

- ・ 第 1 号議案 令和 6 年度事業報告・決算報告について
- ・ 第 2 号議案 会計監査人の任期満了に伴う選任について
- ・ 第 3 号議案 理事及び監事の任期満了に伴う選任について
- ・ 第 4 号議案 評議員事の任期満了に伴う選任について
- ・ 第 5 号議案 退任する評議員の役員退任慰労金について

報告事項

- ・ 郡山駅前 1 丁目第 2 地区市街地再開発事業の状況報告について
- ・ 関連施設の現況報告について

(3) 業務監査・会計監査に関する会議

① 令和 6 年度第 72 期会計監査人監査報告

開催日 令和 7 年 6 月 9 日

内容 決算報告書に関する監査結果報告

② 令和 6 年度第 72 期監事監査

開催日 令和 7 年 6 月 9 日

内容 業務監査及び会計監査

③ 会計監査人と理事者等とのディスカッション

開催日 令和 7 年 10 月 6 日

内容 監査計画についての説明

④ 会計監査人とのディスカッション

開催日 令和 8 年 4 月 15 日

内容 決算に向けての検討事項の把握

(4) その他

常勤理事出席による財団運営会議を、毎月第 1 週に開催した。

5. 診療報告

(1) 令和7年度の患者数等は、次の通りである。

(患者数)

	寿泉堂総合病院		寿泉堂香久山病院		寿泉堂クリニック		合計	
	人	前年比	人	前年比	人	前年比	人	前年比
外来患者総数	106,460	96.8%	9,423	97.1%	19,520	99.0%	135,403	97.2%
一日平均	377.5	96.8%	33.4	97.1%	62.4	98.9%	473.3	97.1%
新患者数	12,389	95.9%	207	52.1%	220	96.5%	12,816	94.6%
入院患者総数	62,448	94.2%	58,347	101.3%			120,795	97.5%
一日平均	171.1	94.2%	159.9	101.3%			331.0	97.5%
新入院患者数	6,854	106.9%	541	104.6%			7,395	106.7%
退院患者数	6,870	107.0%	535	103.5%			7,405	106.8%
病床数	295	96.7%	199	100.0%			494	98.0%

※寿泉堂香久山病院の外来患者数には、介護外来患者数を含む

(寿泉堂香久山病院介護医療院)

令和1年10月1日開設

	令和7年度	令和6年度	増減	前年比
入所者総数	14,757人	15,011人	-254人	98.3%
一日平均	40.4人	41.1人	-0.7人	98.3%
新入所者数	22人	17人	5人	129.4%
退所者数	19人	20人	-1人	95.0%
療養床数	51床	51床	0床	100.0%

(救急日における患者数及び救急車受入件数)

寿泉堂総合病院

	令和7年度	令和6年度	増減	前年比
入院	1,229人	1,303人	-74人	94.3%
外来	4,177人	4,648人	-471人	89.9%
救急車搬送件数	2,479件	2,730件	-251件	90.8%

(人間ドック及び各種健診受診者数)

寿泉堂クリニック

健診内容	令和7年度	令和6年度	前年比
日本病院会指定による二日人間ドック	44人	56人	78.6%
日本病院会指定による一日人間ドック	3,283人	3,457人	95.0%
全国健康保険協会による生活習慣病予防健診	3,723人	3,613人	103.0%
一般事業所健診	7,675人	7,836人	97.9%
郡山市住民健診	2,250人	2,272人	99.0%
個人健診	240人	285人	84.2%
計	17,215人	17,519人	98.3%
特定保健指導	145人	139人	104.3%
保健栄養指導	681人	697人	97.7%

(いずみ訪問看護ステーション)

	令和7年度	令和6年度	前年比
利用者延人数	713人	641人	111.2%
訪問延件数	3,084件	3,054件	101.0%
新規利用者数	24人	53人	45.3%

(寿泉堂香久山居宅介護支援事業所)

	令和7年度	令和6年度	前年比
ケアプラン作成件数	2,033件	2,073件	98.1%
認定調査件数	25件	21件	119.0%

(郡山南部指定介護予防支援事業所)

	令和7年度	令和6年度	前年比
介護予防プラン作成件数	3,387件	2,997件	113.0%

(2) 本年度導入した主な設備・医療機器及びその他の機器は、次の通りである。

(寿泉堂総合病院)

白内障・硝子体手術装置
一般撮影装置
昇降式臥位撮影台
眼科用手術台
超音波診断装置3台
心電計
内視鏡用ホルダ
ベッドサイドモニター5台

全自動液状化検体細胞標本作成装置
一般撮影間接変換 FPD 装置
高周波手術装置
上部消化管汎用ビデオスコープ
経皮血液ガスモニター
散薬分包機
麻酔システム端末
送信機4台

(寿泉堂香久山病院)

錠剤分包機
栄養管理システムソフト

解析付心電計
大型物置

(寿泉堂クリニック)

医療ガス設備
多人数用透析液供給装置
B 粉末溶解装置
透析監視装置5台
一般撮影装置2台
X線TV装置
自動身長計付体組成計
超音波診断装置
受付番号表示システム
待合室用椅子

透析用水作製装置
A 粉末溶解装置
廃熱回収システム
透析電動ベッド28台
マンモグラフィー
骨塩量測定装置
婦人科検診台
解析付心電計
健診システム端末5台
院内セキュリティ装置

6. 公益事業報告

(1) 救急医療活動

- ① 救急医療に関し、郡山地区救急病院協議会、郡山地区第二次病院協議会の運営に協力した。
- ② 救急告示病院として、全日救急患者受け入れに対応した。さらに、郡山地区第二次病院群輪番制により毎週木曜日・金曜日と第2日曜日・第4日曜日を担当し、積極的に地域医療に協力した。担当日における時間外の取扱患者数は、次の通りである。

	令和7年度	令和6年度	増減	前年比
入院（担当日）	945人	1,030人	-85人	91.7%
入院（年度内総人数）	1,229人	1,303人	-74人	94.3%
外来（担当日）	3,872人	4,346人	-474人	89.1%
外来（年度内総人数）	4,177人	4,648人	-471人	89.9%
救急車搬送件数（担当日）	1,475件	1,710件	-235件	86.3%
救急車搬送件数（年度内総件数）	2,479件	2,730件	-251件	90.8%

- ③ 郡山市休日・夜間急病センターの二次病院として、毎週木曜日・金曜日と第2日曜日・第4日曜日を担当し、病床の確保等を通じ全面的に協力した。

(2) 育英事業

令和7年度の奨学生は、次の通りである。

福島県立医科大学看護学部	1人
山形県立保健医療大学看護学科	1人
国際医療看護福祉大学	3人
東北文化学園大学看護学科	1人
東北福祉大学看護学科	1人
新潟医療福祉大学看護学部看護学科	1人
医療創生大学看護学部看護学科	1人
北里大学保健衛生専門学院	1人
福島東稜高等学校看護専攻科	1人
太田看護専門学校	2人
福島看護専門学校	1人
東北医科薬科大学	1人
奥羽大学薬学部	1人

(3) 公衆衛生協力事業等

- ① 開放型病院として、31床の開放型病床を地域の登録医に開放した。（利用率 40.1%）
- ② 所得に左右されることのない医療を提供するため、生活困窮者等を対象とした医療費減免を実施した。（実施件数 33 件）
- ③ 郡山市内小中学校 6 校の健康診断、妊婦健診、乳幼児並びに 3 才児健診を実施した。
- ④ 産業医として市内各事業所の産業安全衛生活動を実施した。

- ・労働者の健康管理等を目的とした産業医活動を実施（5事業所 従業員総数 1,203人）
- ・健康相談・健康セミナーを事業所にて開催（3事業所 年間 28回）
- ・保健師による健康相談・保健指導を事業所にて開催（1事業所 年間 12回）
- ⑤ 厚生労働省からの要請による院内感染対策サーベイランス事業に協力した。
- ⑥ エイズ治療拠点病院として、サーベイランス調査、HIV感染患者の診療に協力した。
- ⑦ 周産期医療協力病院として、福島県周産期医療システムに協力した。
- ⑧ 献血事業協力のため、福島県赤十字血液センターでの採血協力のほか採血バスへの医師派遣を毎月1回実施した。
- ⑨ 社会福祉法人いずみ福祉会への診療協力を実施した。
- ⑩ 郡山市の委託により地域包括支援センターを運営した。

（郡山南部地域包括支援センター運営実績）

	令和7年度	令和6年度	前年比
相談業務	22,052 件	18,553 件	118.9%
実態把握	481 件	406 件	118.5%
地域ケア会議	3 回	1 回	300.0%
地域圏域会議	2 回	1 回	200.0%
生活支援体制整備事業	2 回	3 回	66.7%
介護予防教室	8 回	25 回	32.0%
認知症サポーター養成講座	5 回	2 回	250.0%

- ⑪ 地域住民を対象とする健康教室等を開催した。

（寿泉堂総合病院）

令和7年 4月 12日	医療セミナー 「糖尿病にならないために」 寿泉堂総合病院 糖尿病チーム	51人参加
5月 31日	「看護の日」イベント イオンタウン郡山イベント広場にて開催	134人参加
7月 12日	医療セミナー 「胃がん・大腸がんのお話」 寿泉堂総合病院 消化器外科チーム	79人参加
8月 30日	医療セミナー 「おなかの病気を予防しよう」 寿泉堂総合病院 消化器内科チーム	40人参加
9月 27日	救急の日イベント 郡山地方広域消防組合の協力により、イオンタウン郡山イベント 広場にて開催	350人参加
10月 25日	医療セミナー 「骨粗しょう症について」 寿泉堂総合病院 整形外科	87人参加
令和8年 1月 24日	医療セミナー 「なかなか聞けないリウマチ膠原病のお話」 寿泉堂総合病院 リウマチ膠原病内科	93人参加

（寿泉堂香久山病院）

令和7年 6月 23日	家庭医学講座（7月28日、12月22日） 名倉エンジョイイー・ランド (名倉地域公民館)
-------------	--

- ⑫ 地域医療支援病院として、地域の医師、医療機関を対象とする医学講座並びに症例懇話会を開催した。

(医学講座)

令和7年 7月 7日	第49回寿泉堂病院公開医学講座 演題「健診でよく遭遇する眼底疾患とその治療」 講師 寿泉堂総合病院 アイセンター長 石龍鉄樹先生
10月 29日	第50回寿泉堂病院公開医学講座 演題「リハビリテーション医学の真価と魅力」 講師 福島県立医科大学リハビリテーション医学講座 主任教授 林 哲生先生

(症例懇話会)

令和7年 12月 9日	寿泉堂忘年懇話会 自分の健康に「眼」をかける	参加人数 173人
-------------	---------------------------	-----------

- ⑬ 地域医療支援病院として、地域医療従事者に向けた研修会を開催した。

(寿泉堂総合病院)

令和7年 6月 17日	薬剤科による研修会 「消毒薬の適正使用」	13人参加
8月 20日	リハビリ科による研修会 「骨粗鬆症の予防と運動」	24人参加
10月 22日	皮膚・排泄ケア認定看護師による研修会 「排尿自立支援」	14人参加
11月 18日	感染管理認定看護師による研修会 「インフルエンザについて」	16人参加
12月 17日	精神看護専門看護師による研修会 「認知症のある人を理解する」	14人参加
令和8年 1月 20日	がん化学療法看護認定看護師による研修会 「がん薬物療法における副作用マネジメント」	9人参加
2月 18日	感染管理認定看護師による研修会 「ノロウイルスについて」	11人参加
3月 17日	腎不全看護認定看護師による研修会 「透析患者さんのACPについて一緒に考えましょう」	9人参加
3月 24日	診療部による研修会 (Web研修) 「救急外来で見逃さない腸閉塞」 「外来透析患者における」運動療法の有用性と課題」	

(寿泉堂香久山病院)

令和7年 9月 14日	第4回リハビリテーションフォーラム	40人参加
-------------	-------------------	-------

- ⑭ 各種研修会講師、地域の健康増進、各種行事等へのスタッフ派遣に協力した。

令和7年 4月 29日	第32回郡山シティーマラソン 救護班	看護師2人
5月 31日	郡山市まちなか夢駅伝競走大会 救護班	看護師2人

7月 7日	高齢者・障害者施設向け感染症に関する研修会 講師	感染管理認定看護 師 1人
7月 9日	看護の出前講座 講師 船引高等学校	助産師 2人
7月 18日	土屋病院 看護力支援事業 講師 (8月 8日、9 月 12日、10月 10日、11月 14日)	感染管理認定看護 師 1人
8月 29日	日東病院 看護力向上支援フォローアップ研修 会 講師	感染管理認定看護 師 1人
7月 12日	公衆衛生事業「まちの保健室」	保健師 2人
8月 8日	第 61 回郡山うねめまつり 救護班 (～9日)	看護師 4人
9月 9日	看護の出前講座 講師 緑ヶ丘第一小学校	看護師 2人
11月 21日	福島県病院協会看護補助者研修会 講師	感染管理認定看護 師 1人
11月 27日	グループホームすぷりんぐ施設研修 講師	訪問看護師 1人
12月 5日	福島県看護協会 医療機関における看護力支援 事業報告会 講師	感染管理認定看護 師 1人
令和 8年 3月 18日	スプリングガーデンあさか感染対策研修会講師 (25日)	感染管理認定看護 師 1人

⑮ ボランティア受け入れのため、運営委員会を開催した。

(ボランティア運営委員会) 寿泉堂総合病院 6回

⑯ 地域のコミュニティスペースとして、寿泉堂総合病院の会議室を開放した。

令和 7年 7月 6日	福島県糖尿病看護研究会世話人会 福島県糖尿病看護研究会
7月 26日	BLS プロバイダーコース (～27日) 日本 ACLS 協会
8月 3日	回復期リハビリテーション研修会 回復期リハビリテーション協議会
9月 13日	福島フットケア研究会世話人会 福島フットケア研究会
10月 19日	福島県糖尿病看護研究会世話人会 福島県糖尿病看護研究会
11月 15日	BLS/ICLS 講習会 (～16日) 日本救急医学会
12月 20日	ACLS プロバイダーコース (～21日) 日本 ACLS 協会
令和 8年 1月 17日	ACLS プロバイダーコース (～18日) 日本 ACLS 協会
1月 28日	医療ソーシャルワーカー協会運営部会 医療ソーシャルワーカー協会

(4) 研究研修事業

臨床研修医、医学実習生及びその他の実習生を受け入れた。また、関連大学に研究費の助成を実施した。

① 研究助成・事業援助の状況

(ア) 関連大学へ研究助成	32 件	19,100,000 円
(イ) 関連各種学会へ事業援助	1 件	200,000 円
(ウ) 地域への事業援助	9 件	216,000 円

② 初期臨床研修医の受入状況

- (ア) 基幹型臨床研修病院（寿泉堂総合病院）
 マッチングによる 2 年間の研修（医科） 1 年次 5 人 2 年次 6 人
 マッチングによる 1 年間の研修（歯科） 1 人
- (イ) 一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院の協力型臨床研修病院（寿泉堂総合病院）
 研修医 1 年次 4 人 2 年次 3 人
 研修科目 産婦人科
- (ウ) 福島県立医科大学附属病院の協力型臨床研修病院（寿泉堂総合病院）
 研修医 2 年次 1 人
 研修科目 産婦人科

③ 看護学生等の受入状況

	学校名	人数
看護学生	福島県立医科大学看護学部	68 人
	福島県立医科大学看護学部別科助産学専攻	4 人
	福島県立医科大学大学院看護学研究科	1 人
	医療創生大学	10 人
	郡山看護専門学校 看護学科	24 人
	郡山看護専門学校 准看護学科	115 人
	ポラリス保健看護学院	8 人
	国際医療福祉看護大学	2 人
薬学生	奥羽大学	2 人
	谷病院	1 人
リハビリテーション科学生	福島県立医科大学	2 人
	東北福祉大学	1 人
	仙台総合医療大学校	1 人
	つくば国際大学	1 人
	郡山健康科学専門学校	1 人
視能訓練士学生	国際医療福祉大学	6 人

歯科衛生士学生	福島医療専門学校	13人
栄養士学生	郡山女子大学	2人
事務関係学生	佐野日本大学短期大学	2人
訪問看護人材育成研修	福島県看護協会	2人
福島県介護支援専門員実務研修	福島県社会福祉協議会	1人

④ 看護学生インターンシップ受入状況

学校名	人数
福島県立医科大学看護学部	6人
茨城キリスト教大学	2人
群馬パース大学	2人
医療創生大学	3人
山形県立保健医療大学	1人
足利大学	1人
帝京平成大学	1人
新潟医療福祉大学	1人
公立岩瀬病院附属高等看護学院	7人
スズキ病院附属助産学校	1人
ポラリス保健看護学院	2人

⑤ 一般の実習受入状況

実習内容	人数
高校生の一日本看護体験	26人

⑥ 研究事業

(ア) 学会発表演題数 (診療部) 34題

(イ) 剖検数 3体

⑦ 研修事業

(ア) 研究研修のための学会等への派遣 (延人数)

	本部	寿泉堂	香久山	クリニック	いづみ訪問	居宅介護	地域包括
診療部	—	153人	6人	7人	—	—	—
看護部	2人	132人	73人	6人	—	—	—
診療支援部	—	64人	9人	3人	—	—	—
事務部	7人	51人	13人	8人	—	—	—
その他	—	2人	—	—	—	—	—
合計	9人	402人	101人	24人	—	—	—

(Web研修)

	本部	寿泉堂	香久山	クリニック	いづみ訪問	居宅介護	地域包括

診療部	—	34人	9人	6人	—	—	—
看護部	—	10人	6人	7人	—	—	—
診療支援部	—	8人	6人	6人	—	—	—
事務部	2人	5人	—	1人	—	—	—
その他	—	0人	—	—	—	—	—
合計	2人	57人	21人	20人	—	—	—

(イ) 教育研修等

(法人)

令和7年 4月 2日	新採用者採用後研修	44人参加
5月 10日	プロジェクト E&T 階層別研修会 (管理職研修)	39人参加
6月 13日	プロジェクト E&T 階層別研修会 (ステップアップ研修)	38人参加
7月 8日	プロジェクト E&T 新役職者研修会 (ジュニアスタッフ研修)	31人参加
7月 23日	プロジェクト E&T 階層別研修会 (リーダー研修)	(9月 26日) 56人参加
10月 8日	プロジェクト E&T 新役職者フォローアップ研修会 (令和7年度新役職者)	13人参加
10月 29日	プロジェクト E&T 業務改善の取り組み報告会 (令和6年度新役職者)	17人参加
11月 18日	新入職員フォローアップ研修会	44人参加
12月 6日	新役職者考課者訓練	15人参加
12月 18日	第33回寿泉堂病院学会 (～1月9日 Web 配信)	780人参加

(寿泉堂総合病院)

令和7年 10月 14日	保険診療に関する研修会 「保険診療における身体的拘束最小化の取り組み」 (～30日 Web 配信)	607人参加
令和8年 2月 18日	MRIの安全管理に関する研修会 (～4月30日 Web 配信)	155人参加
3月 26日	保険診療に関する研修会 「HCUの進捗と今後の運用について」 「HCUの算定と看護必要度について」 (～4月11日 Web 配信)	466人参加

(寿泉堂香久山病院)

令和6年 6月	輸血療法について	269人参加
12月	ハラスメントについて	270人参加

(寿泉堂クリニック)

令和7年 10月 14日	接遇研修会 (21日) 「自分も相手も認める関わり方」	75人参加
--------------	--------------------------------	-------

(ウ) 海外研修 海外情勢を考慮し実施せず

7. 設備改修工事等報告

令和7年度に実施した主な設備改修工事は、次の通りである。

(寿泉堂総合病院)

- ・地下女子更衣室排気ファン設置工事
- ・エコマイザー給水ポンプ更新工事
- ・防災センター側自動ドア装置更新工事
- ・Jパーキング2号機乗込みロデッキ修繕工事
- ・GHP 室外機修繕工事 (10階病棟、7階病棟、救急センター)
- ・EHP 空調機更新工事 (MRI/CPU 室)

(寿泉堂香久山病院)

- ・一般系統給湯器更新工事

8. 労使関係報告

- (1) 令和7年4月1日からの休日・時間外労働に関する労使協定(36協定)を締結した。
- (2) 令和7年4月1日付、育児・介護休業法の改正による就業規則の変更を行った。
- (3) 令和7年4月1日付、高齢者雇用確保措置の終了に係る就業規則の変更を行った。
- (4) 令和7年5月9日開催の労使協議会において、令和7年度の給与改定について妥結した。昇給率2.06% 昇給額 4,030円 (標準5号の定期昇給)
- (5) 令和7年5月9日開催の労使協議会において、令和7年度の上期賞与の支給率について妥結した。(基本給+調整手当4,000円) × (基準賞与1.5ヶ月+業績賞与0.9ヶ月)
- (6) 令和7年6月1日付、寿泉堂香久山病院看護師の夜勤手当増額に伴う就業規則の変更を行った。
- (7) 令和7年10月1日付、寿泉堂総合病院における夜勤専門看護師の導入を行った。
- (8) 令和7年10月1日付、柔軟な働き方を実現するための措置等に係る就業規則の変更を行った。ベビーシッター利用補助、養育両立支援休暇の付与を開始した。
- (9) 令和7年11月19日開催の労使協議会において、令和7年度下期賞与の支給率について妥結した(基本給+調整手当4,000円) × (基準賞与2.0ヶ月+業績賞与0.4ヶ月)。
寿泉堂香久山病院介護職員(医療病棟のみ)の夜勤手当増額に伴う就業規則の変更を行った。
- (10) 労使双方の代表によって構成する「給与委員会」を定例開催した。

9. 庶務事項報告

- (1) 令和8年3月31日現在の職員数は次の通りである。

(単位：人)

	医師		看護師・准看護師		医療技術員		事務職員		その他		計	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
本部			1				13	3			14	3
寿泉堂	61	82	224	24	113		80	5	33	6	511	117
香久山	8	8	95	5	57		18		62	6	240	19
クリニック	4	11	31	3	9		16	2	2	2	62	18
いずみ訪問			5								5	
居宅介護			5				2				7	
包括支援			6				2				8	
計	73	101	367	32	179		131	10	97	14	847	157

※休職者除く

- (2) 監査法人による法定監査を受けた。
- (3) 従業員の健康確保、労働環境確立と労働能力の高揚を目的に、各施設において衛生委員会（昭和55年1月制定）を12回開催した。
- (4) 医療安全の確保を目的とした医療安全管理委員会、医療安全対策委員会及び職員研修会を次の通り開催した。

(医療安全管理委員会、医療安全対策委員会)

寿泉堂総合病院	24回
寿泉堂香久山病院	13回
寿泉堂クリニック	6回

(医療安全管理研修会)

令和7年 4月 2日	令和7年度新採用者医療安全研修会（4日、10日、16日） 「医療安全」「薬剤について」「輸液ポンプ・シリンジポンプ」 105人参加
7月 16日	医療安全管理研修会（18日、23日、25日、28日、30日） 「確認作業を確実に実施するために」 「医療安全室からインフォメーション」 647人参加
8月 8日	医療安全管理研修会（14日、15日、19日） 寿泉堂クリニック 「事例から得た教訓をいかに改善に繋げるか」 「事例の振り返り：健診センター」 65人参加
10月 3日	医療安全管理研修会（11月7日、12月5日） 寿泉堂香久山病院 「KYTについて」 51人参加
令和8年 1月 21日	医療安全管理研修会（22日、29日、30日） 「事例からの振り返り」 「医療安全室からインフォメーション」 641人参加
2月 12日	医療安全管理研修会（13日、18日） 寿泉堂クリニック 「チーム医療における5Sの意味を考えよう」 「事例の振り返り：健診センター」 63人参加

- (5) 院内感染の予防と拡大防止を目的とした院内感染対策委員会（平成4年4月制定）を12回開催し、職員研修会を次の通り開催した。

(感染対策研修会)

令和7年 4月 2日	新採用者感染研修会（4日）	42人参加
------------	---------------	-------

5月 7日	看護補助者研修会（随時）	54人参加
6月 4日	感染対策研修会（11日、13日、20日、25日、30日） 「手指衛生について」「抗菌薬適正使用について」	670人参加
7月 15日	感染対策研修会（17日、31日） 「手指衛生について」	寿泉堂クリニック 69人参加
7月 2日	感染対策研修会（～18日） 「手指衛生について」	寿泉堂香久山病院 247人参加
11月 4日	感染対策研修会（～12月1日） 「結核について」	寿泉堂香久山病院 271人参加
11月 5日	感染対策研修会（12日、14日、17日、19日、26日） 「歯性感染症について」 「抗菌薬適正使用について」	649人参加
令和8年 1月 20日	感染対策研修会 「新興感染症への備え」「手洗いの実技」	寿泉堂クリニック 63人参加

- (6) 医療ガス（診療の用に供する酸素、窒素、各種麻酔ガス等）設備の安全管理を図り患者の安全を確保するため、医療ガス安全委員会及び医療ガス設備取扱講習会を次の通り開催した。

(委員会)

寿泉堂総合病院	令和8年3月27日
寿泉堂香久山病院	令和7年4月5日
寿泉堂クリニック	令和8年2月9日

(取扱講習会)

寿泉堂総合病院	令和7年4月8日
寿泉堂香久山病院	令和7年4月16日 令和8年3月18日
寿泉堂クリニック	令和7年10月28日

- (7) 透析機器の安全管理を図り患者の安全を確保するため、医療機器取扱セミナーを次の通り開催した。

(医療機器取扱セミナー)

寿泉堂クリニック	令和7年5月29日
	令和8年2月5日

- (8) 防火避難訓練を次の通り実施した。

寿泉堂総合病院	令和7年	12月	2日	教養型防災訓練（総合訓練）web
寿泉堂香久山病院	令和7年	5月	22日	（夜間総合訓練）
寿泉堂クリニック	令和7年	6月	9日	避難・消火・通報訓練（総合訓練）
		9月	1日	（透析センター 日本透析医会主催 災害時情報伝達訓練参加）
		9月	1日	（透析センター 福島県透析連絡会議主催 MCA 無線使用災害時情報伝達訓練参加）

		10月	27日	避難・消火・通報訓練（総合訓練）
さくら保育園				毎月第3木曜日

(9) 令和7年度の職員及び団体に対する外部からの表彰は、次の通りである。

福島県食事療養研究会連合大会	優良栄養士 1人
福島県看護功労者表彰	看護功労知事感謝状 1人
福島県看護協会会長表彰	優良看護職員 2人
「看護の日」制定 35周年記念知事表彰式	知事表彰 1人
郡山地区産業安全衛生大会	優良管理者 2人 優良従業員 2人
健康ふくしま 21推進県民表彰	優良保健師 1人 優良看護師 1人
郡山市公衆衛生大会	優良看護師 2人 優良薬剤師 1人 優良栄養士 1人

10. 主要記事

- 令和7年
- 4月 1日 新入職員入社式並びに辞令交付式
 - 5月 24日 看護学生を対象に「病院説明会」(6月14日)
 - 7月 11日 東北厚生局による適時調査 (寿泉堂総合病院)
 - 7月 25日 地域住民を対象に「夏祭り」開催 (寿泉堂香久山病院)
 - 8月 9日 看護師を対象に「病院見学会」開催
 - 8月 20日 令和7年度永年勤続者表彰 49人
 - 50年勤続表彰 1人 40年勤続表彰 4人
 - 30年勤続表彰 7人 20年勤続表彰 12人
 - 10年勤続表彰 25人
 - 8月 21日 ISOサーベイランス審査受審(～22日) (寿泉堂香久山病院)
 - 9月 21日 第14回寿泉堂病院ゴルフ大会開催
 - 9月 27日 さくら保育園親子レクリエーション開催
 - 10月 27日 郡山市による令和7年度認可外保育所施設立入調査 (さくら保育園)
 - 11月 11日 湯浅孝子会長お別れの会開催
 - 11月 22日 寿泉堂病院解剖慰霊祭開催
 - 11月 25日 長期透析患者表彰式 受賞者1人 (寿泉堂クリニック)
 - 12月 13日 さくら保育園クリスマス会開催
 - 12月 15日 郡山保健所による病院立入検査 (寿泉堂総合病院)
 - 12月 24日 クリスマスコンサート開催(～25日) (寿泉堂総合病院・寿泉堂香久山病院)

	12月	25日	クリスマス会開催	(寿泉堂総合病院)
令和8年	1月	14日	郡山保健所による病院立入検査	(寿泉堂香久山病院)
	2月	28日	寿泉堂クリニック新築移転のため休診	
	3月	1日	寿泉堂クリニック新築移転オープン	
	3月	18日	令和7年度医師・歯科医師臨床研修修了式開催	
	3月	18日	定年退職者特別表彰式開催	
	3月	19日	さくら保育園お別れ会開催	